

授業概要

科目名	言語発達障害学Ⅱ				授業の種類	演習	講師名	橋本 沙代子
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2 後期
【授業の目的・ねらい】								
様々な障害特性に応じた検査を選定し、実施・記録・解釈ができる。 発達段階や障害特性に応じた支援方法を理解できる。								
【実務者経験】								
言語聴覚士としてこども発達サポートセンター、野間こどもクリニックなどで発達障害児の言語聴覚療法に従事経験。								
【授業全体の内容の概要】								
講義および実技指導により、検査手技および記録の作成を行う。 段階別・障害別支援プログラムについて理解を深める。								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】								
言語発達障害の特性に応じた評価・指導・訓練のあり方について理解できる。 発達段階に合わせた指導について基本的知識と技術を身につける。								
回数	講義内容							準備物(教材)
1	言語発達障害に関連する各障害特性について理解できる							言語発達障害学第3版
2	言語発達検査の種類と概要について理解し説明できる							言語発達障害学第3版
3	小児臨床でよく使用される検査について理解・実施・記録できる①							言語発達障害学第3版
4	小児臨床でよく使用される検査について理解・実施・記録できる②							言語発達障害学第3版
5	小児臨床でよく使用される検査について理解・実施・記録できる③							言語発達障害学第3版
6	小児臨床でよく使用される検査について理解・実施・記録できる④							言語発達障害学第3版
7	小児臨床でよく使用される検査について理解・実施・記録できる⑤							言語発達障害学第3版
8	検査結果の記録まとめ・解釈ができる①							言語発達障害学第3版
9	検査結果の記録まとめ・解釈ができる②							言語発達障害学第3版
10	発達段階に応じた指導について理解できる①							言語発達障害学第3版
11	発達段階に応じた指導について理解できる②							言語発達障害学第3版
12	障害別指導について理解できる①							言語発達障害学第3版
13	障害別指導について理解できる②							言語発達障害学第3版
14	模擬症例への検査選定・指導プログラムの検討ができる							言語発達障害学第3版
15	まとめ							言語発達障害学第3版
	定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】								
言語発達障害学 第3版								
【準備学習・時間外学習】								
指定教科書の予習と、講義後の復習は毎回行うこと。								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】								
試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施し、60点以上の場合に科目を認定する。								